日本キリスト教会　広島長束教会だより

ミニバラ No.37

〒731-0135　広島市安佐南区長束 3-32-16

TEL/FAX
082-238-3459

2012年7月発行

よこしまな時代はしるしを求める

「ここに、ヨナにまさるものがある。」
（ルカによる福音書11章32節）

主イエスはご自分のもとに集まってくる人々に、「今の時代の者たちはよこしまだ。しるしを欲しがるが、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられない」と、非難する言葉を発せられました。

しるしそのものに悪い意味はありません。聖書では、奇跡としるしが同じような意味で用いられています。その出来事を通して神の力が現れ、神とそうでないものとを区別するしるしになるのです。しるしを見て、イエス様を信じた人がたくさんいました。しかしここでは、しるしを欲しがることが良くないこととされています。それは、主イエスの悪霊退治をその目で見ながら、満足しないで、さらに「天からのしるし」を求めた人がいるからです（11：15）。

不思議なこと、常識ではわからないことを求めるというのは古今東西どこにでもあります。私たちも、心の底ではそういうしるしを欲しがっているのです。

神がしるしを与えて下さることと、人間がしるしを求めることはまったく違うことがらです。ユダヤ人は歴史的に、神から多くのしるしを与えられていました。しかし、そうであれば、何よりもまず神の前にけんそんになって、感謝の気持ちを忘れないことが大切だったのに、彼らはそうはせず、「天からのしるしを見せてくれ」と言って、さらに刺激的なしるしを求めるのです。主イエスはそこに、人々のおごりをご覧になりました。

しるしを求める人間の根底には、相手を信じきっていない心があります。たとえば男女間で、「私を愛しているなら、これをしてちょうだい」などと無理な要求をする場合があります。本当に相手を信じていればそんなことはしません。これと似たことが神と人間の間で起こっています。人々の要求は、「あんたが神から遣わされた方なら、もっとすごいことを見せてほしい」というものでした。

主イエスはその時、「ヨナのしるし」のことを言います。ヨナは神から異邦人の都ニネベに遣わされてみ言葉を宣べ伝え、人々を悔い改めに導いた人です。ヨナはニネベで、神が告げた通り、「あと四十日すれば、ニネベは滅びる」と告げてまわりました。すると、意外なことにニネベの人々はヨナの言葉を聞いて、断食してひたすら神に祈りました。神は彼らが悪の道を離れたことをご覧になって、この都を滅ぼすことをおやめになりました。「ニネベの人々は、ヨナの説教を聞いて悔い改めた」（11：32）。すなわち「ヨナの説教」こそがしるしでありました。

主イエスは、お前たち不信仰な者たちにもヨナのしるしは与えられると言われます。それは説教です。「ここに、ヨナにまさるものがある」、主イエスの説教はヨナの説教にはるかにまさるもので、それは世界中に届くのです。

先日、金環日食がありましたが、かりに主イエスが金環日食の奇跡を起こされたとしたら、人々は喜んで、これこそ天からのしるしだと言ったことでしょう。しかし、それで本当の信仰が生まれるでしょうか。そんなことでイエス様を信じたとしても、その信仰は吹けば飛ぶようなものでしかありません。

教会は人をあっと言わせる天からのしるしではなく、日曜日ごと、人がたくさん集まってもそうでなくても、み言葉をただ伝えて行く、すなわち説教というたいへん地味な方法でもって伝道してきたのです。

だから皆さんも、自分勝手な思いから天からのしるしを求めても与えられませんが、み言葉だけは与えられます。み言葉しか与えられないと思われるかもしれません。しかしみ言葉こそが私たちの人生を輝かせるのです。これによって主イエスが今の時代に対してしるしとなっておられます。

政治、経済、あらゆるところで行き詰まりと閉塞状況に直面している日本を救うのもみ言葉であることを覚えたいものです。

（2012年6月3日の礼拝説教より）

牧師　井上　豊